

SPECIAL

糖尿病療養支援委員会のご紹介

糖尿病内分泌
内科部長

やなぎさわ かつゆき
柳澤 克之



厚生労働省の2007年国民栄養調査によれば、本邦での糖尿病患者およびその予備軍の数は2210万人と推測され10年前の1997年と比べ1.6倍に増え、最近は増加ペースが加速しています。そして糖尿病が強く疑われる人の半数以上は未治療の状況とされており、また厚生労働省から2009年に発表された患者調査では入院患者の約16%が糖尿病をもっているとされ、当院においても院内全科にわたり糖尿病治療を必要とする患者さん、さらに併発症として糖尿病を持ち原病の治療に支障を来す患者さん(主傷病と副傷病を合わせた患者さん)が2009年ではのべ1189人おり、全国的な糖尿病患者の増加からも院内においても今後も増加傾向にあるものと推察されました。

糖尿病診療は医師のみならず、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師など多くのコメディカ

ルの力を結集、協働しチーム医療を行うのが最も効果的と考えられます。

こういった現状に基づき、院内の糖尿病診療や糖尿病療養支援をサポートし、その質を向上させる必要性が求められる状況となったことにより『糖尿病療養支援委員会』が発足することとなり、昨年度より活動を始めました。構成メンバーは医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師、事務職員等、当院のすべての職種が含まれ、さらにその中には糖尿病看護認定看護師とともに日本糖尿病療養指導士(CDEJ)の資格を持つ多くのコメディカルスタッフが含まれています。活動内容の骨子を下記にまとめました。



糖尿病療養支援委員会活動内容

委員会は目的達成のため以下の項目に関して各コメディカルが連携してチームアプローチのもとに活動を行う。

1. 患者の支援
 - 1) 院内での療養支援など患者指導にかかる質の向上を図る。
 - 2) 糖尿病患者及びその予備軍の療養環境の向上を図る。
 - 3) 患者会の支援。
2. 院内スタッフの教育・支援
 - 1) 院内・地域における糖尿病診療、療養支援における連携を図る。
 - 2) 糖尿病におけるインシデント・アクシデント予防を目指す。
 - 3) 糖尿病における最新の知識を共有する機会(勉強会等)をつくる。
 - 4) 市立札幌病院療養支援研究会の支援、日本糖尿病療養指導士(CDEJ)資格取得、継続等の支援を行う。

市立札幌病院 糖尿病支援委員会 要綱より一部抜粋

院内外との最新知識の共有を目的にはDMST (Diabetes Medical Support Team) ニュースの年4回の発行(図1)、講演会(DMSTセミナー)の実施を行っています(第1回テーマ:、第2回テーマ:糖尿病のキホン)(図2)。特に6月のセミナーには地域連携センターからの情報配信により、多くの当院連携施設の方々にご参加をいただき、感謝いたしております。



昨年度はインスリンマニュアルの改訂・整備の実施に取り組みました。これは数年前に医療安全委員会とともにインシデント・アクシデントの予防を目的として作成されていたインスリンマニュアルが、製剤の変更や新しい薬剤の登場などでかなり古くなったために改訂したもので、新薬の登場などに対応したものとっております。今年度は院内でのコンサルテーションシステムの構築のための準備を行っているところです。



また診療報酬算定には以前より糖尿病療養指導や合併症予防(フットケア)など、コメディカルスタッフがかわる要件がありました。今年度からは糖尿病透析予防指導など、チーム医療の取組みに対しての評価として診療報酬算定もされることとなり、厚生労働省の方針には、糖尿病重症化予防の方策として糖尿病療養指導士(CDEJ)の活用も言及されるに至り、今後チーム医療は益々重要な要件となることが予想されます。

糖尿病チーム医療のさらなる充実のために、今後本委員会の活動を活性化させるとともに院内外への情報発信を行っていきたいと考えております。連携施設の皆様にもぜひご関心をお持ちいただき、何か御要望などございましたら、お寄せいただけますと幸いです。



(図1)DMSTニュース



(図2)DMSTセミナーの様子